



TITLE:

司会

AUTHOR(S):

石川, 威

CITATION:

石川, 威. 司会. 日本外科宝函 1989: 31-31

ISSUE DATE:

1989-12-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/204404>

RIGHT:

司 会

国立八日市病院副院長 石 川 威

宮崎逸夫教授の御講演を賜りたいと思います。御講演の前に先生の略歴を簡単に紹介しますと、前回の水本教授と金沢大学では同期でありまして、昭和30年3月に金沢大学医学部を卒業され、35年に大学院を修了されました。そして、昭和49年に金沢大学第二外科の教授に御着任されていますが、この間昭和34年から40年の7年間、本庄一夫教授を京都大学からお迎えして、直接本庄先生の御指導を賜っております。学会関係の役職は非常に沢山ございますが、ここでは割愛させていただきます。昨年の32回日本消化器外科学会の会長をなさっています。今日の講演は、「膵管損傷」ということになっております。今まで御三方の先生のお話は非常に外科の先端といいますか、非常に肩に力の入るようなお話でしたが、今度は少し宮崎先生にはソフトにお願いできるのではないかと、思います。本庄先生も肝切除、膵全摘というふうに、非常に力強い外科をおやりになられながら、僕は一面非常に女性的な所があったという印象を受けます。そういう意味で本庄先生は、日本の外科にアメリカンスタイルをもち込まれた、最初の先生ではないか、と思っております。

それでは、宮崎教授よろしく申し上げます。